

■第二次新潟市下水道中期ビジョン（改訂版）検討委員会 第2回意見概要

施策	項目	意見概要	対応案
			①改訂版に反映 ②実施段階で対応 ③次期ビジョン策定時に反映 ④その他
施策1 下水道施設の機能確保と 計画的な改築	民間委託の導入	ウォーターPPPは更新を含めてやっていくことであるので、「維持管理における」という表現について再考してほしい。	① 「①見直しの方向性」の見出しの表現を「下水道施設の維持管理・更新におけるPPP/PFIの導入拡大」に改めました。
		ウォーターPPPについては、民間が引き受けられる部分を検討したうえで導入してもらいたい。	② 導入可能性の検討等において民間企業へのサウンディング等を実施した上で、対象施設や対象業務を決定していきます。
	指標の数値化	数値化されていないと後でPDCAを回す際にしにくくなってしまいます。数値化する方向で検討してもらいたい。	① 施策の目標について、施策目標と取組指標に分類し、施策目標については、可能な限り数値化しました。
施策2 雨に強い都市づくり	浸水対策の広域的な連携	浸水対策には、国営、県営の排水機場や河川部局、農業部門などその他関係機関との広域な連携が必要だが、そのことが書かれていない。	① 記載内容を変更しました。
	雨に強い地域についての記載内容	雨に強い地域というのは市民が期待するところであるので、市民が協力してみようと思うような、踏み込んだ記載にしてもよいのではないか。	① 文書だけではなく、写真や挿絵など工夫します。
	浸水シミュレーションの評価方法	農地など市街化区域外からの流入を計算しないと本当のシミュレーションはできないし、貯留管をつくるにしても流域で他施設が担う部分も含めて考えないと施設の効率化は図れないと考える。	② 浸水対策の基本検討等の段階で、考慮していきます。
	雨水対策の協議	関係機関が高い視点で話し合うべきと考える。協議会などを作って、スペシャリストを入れて話し合うのがよいと思う。雨が想定外に降っているのですぐ取り掛かるべきだが、どこかが旗を振らないと進まない。	④ 災害については、防災部局を中心に連携を図っていきたいと思っています。その他、河川等個別の関係者と連携を図っていききたいと思います。
施策4 総合的な汚水処理の推進 ・合流式下水道の改善	指標の数値化	手段が目的化されているものがある。全般的に目標の数値化を含めて、どのように達成していくのかを目的化した方がいい。	① 施策の目標について、施策目標と取組指標に分類し、施策目標については、可能な限り数値化しました。
	合流改善の記載	合流改善は汚濁負荷量でみれば日本海に流れていくのであるから、東京都の基準に合わせる必要はないと思う。	④ 効果確認を行い、新たな取り組みの可否について検討していくため現記載のままとしました。
施策5 下水道資源の有効利用	資料の表現方法	発電して経費削減効果があるのだということなどが見える記載がよい。	① 消化ガス発電に関しては、発電機の供用に係る維持管理費が発生することから経費削減効果が無いため、取り組みの効果として、「②施策の目的・背景」に温室効果ガス削減の効果を追記しました。
	温室効果ガスの抑制	水処理の過程での温室効果ガスの抑制などについて検討しないのか、メニューとして記載できると良い。	① 水処理過程由来の温室効果ガスについては、現在、研究機関や民間企業等で発生メカニズムの解明や抑制技術の開発を進めている段階であり、情報が少ないため、情報の整理や本市の発生状況の把握などを「③主な取組み内容および指標」に追記しました。
下水道経営 経営の効率化と経営基盤 の強化	民間委託への懸念	施設管理の民間委託について、すべてを委託するわけではないと、誤解なく伝わるような表現にしてほしい。	① 施設管理業務すべてを委託するわけではないことについて、誤解のないような表現で記載します。
下水道経営 効果的な広報	世代別の広報	市民の雨に対する不安の声を聞くことが多くあるが、情報発信を子ども、親、高齢者ごとに効果的に考えていく必要がある。	① インターネットや紙媒体等を活用し、各世代へ効果的に情報発信していきます。
全施策 共通	指標の数値化	目標設定については可能な限り数値化し、数値化が難しい場合でもどこまでというところをできるだけ記載してほしい。	① 施策の目標について、施策目標と取組指標に分類し、施策目標については、可能な限り数値化しました。